

令和元年度 第8回 昭島市社会教育委員会会議・要点録

開催日時／会 場 令和元年 11 月 21 日（木）午後 7 時 00 分～9 時 00 分 昭和会館
出席者 谷部議長、中村副議長、齋藤委員、長瀬委員、稲垣委員、濱田委員
二ノ宮リム委員、吉村委員
欠席者 佐伯委員、松本委員
事務局 川崎社会教育係長、来住野社会教育主事
傍 聴 国立市社会教育委員の会議議長

1 開 会

＜配付資料＞

- 資料 1 令和 2 年度社会教育関係団体補助金事務局案について
- 資料 2 令和 3 年度関東甲信越静社会教育研究大会東京大会スローガンについて
- 資料 3 視察研修日程について
- 資料 4 第 30 期社会教育委員会会議のテーマに向けて
- 資料 5 第 50 回関東甲信越静社会教育研究大会埼玉大会研修報告
- 資料 6 令和 3 年度関東甲信越静社会教育研究大会東京大会 令和元年度第 2 回実行委員会 次第
- ・あきしまの青少年～特集号～2019 青少年フェスティバル
 - ・第 56 回東京都公民館研究大会開催要項
 - ・冬休み これってどうする？～江戸の和算に挑む～
 - ・生涯学習サポーター養成講座第 6 回

2 議 題

（1）令和 2 年度社会教育関係団体補助金事務局案について （資料 1）

議 長 社会教育関係団体の補助金は、昭島市社会教育関係団体補助金交付要綱に基づき、「社会教育委員会会議の意見を聞いて、補助金交付の内定を行い、補助金額等を内示するものとする。」となっていることから、事務局案についてご意見があればお願いしたい。

委 員 以前この会議の中で、新しい団体についてはその活動を軌道に乗せるにあたり補助が必要となるが、ある程度力をつけて運営が可能になれば不要なのではないかという意見が出たこともある。平成 27 年度以降微減とはなっているが、そのあたりの考え方はどうか。

事務局 各団体からの要望に基づいて、減額も含め、毎年検討しながら予算額を決めさせてい

ただいている。

委 員 生涯学習校区協議会とはどういうものか。

事務局 平成 15 年の「あきしま学びぷらん（昭島市生涯学習推進計画）」の中で、各小学校区にひとつ協議会を設置し、地域の人たちが学校を拠点に生涯学習活動を展開することを目指した計画に基づいたもの。当初 3 つの協議会が立ち上がった。その後、小学校の統廃合の影響もあり、現在は田中小校区生涯学習住民協議会のみとなっている。星空を見る会や、寄席、けん玉教室などを実施している。

委 員 補助金は主に連合組織に出しているかと思うが、これはどのようになっているのか。

事務局 生涯学習校区協議会の補助金は、社会教育関係団体の補助金と違って、「生涯学習校区協議会補助金交付要綱に基づき交付しているものになっている。

議 長 特に意見がなければ、承認ということでよいか。

※ 異議なし

（２）令和３年度関東甲信越静社会教育研究大会東京大会スローガンについて （資料２）

議 長 都市者連協事務局より、東京大会のスローガンについてアンケートが届いているので、こちらについて議論したい。

委 員 このスローガンが決まらないと、東京大会で何をやるのか決まらないということか。また、実行委員会の方から多少の方向性などは出ていないか。本来研究主題が決まって、スローガンを決めるのではないかと思うので、決めにくいと思うが。

議 長 各市から意見を聞いたうえで、決めたいということだと思う。

委 員 この研究大会は、社会教育委員がいろいろな地域の実践事例を見て学ぶという形で毎回行われているが、それが果たしてどのくらい持ち帰られ、地域で活かされているのか疑問を感じている。そこで、「社会教育委員は本当に必要なのか」ということをテーマにし、それぞれが考える機会にしてもいいのではと思った。

議 長 昨年の大会で、委員によっては名誉職で活動がほぼないところもあり、ずいぶん温度差を感じた。我々は「あきしま会議」の活動を通して、市民のニーズを活かしつなげようと試みているので、東京大会でも「市民のニーズを活かす・つなげる 社会教育」としてはどうかと思った。

委 員 先日の第２ブロック研修会の中でも、あきしま会議に中学生が参加したことに関心が集まった。「つなげる」ということはよく聞くが、ただつなげるのではなく、「世代を超えて」つなげるということが大事だと思う。もともとあきしま会議は、各団体がいろいろな課題を共有しあってそれを自分の団体の解決策につなげられたらということが始まったが、中学生の参加により、別の視点で新しいつながりができるきっかけでもあると思った。それが他市の社会教育委員の関心も引き寄せたのだろう。

委 員 埼玉大会でも、あきしま会議について社会教育委員が主体となった定期的な活動への関心と中学生くらいの子供たちが地域活動の場に来てくれること自体が驚きだという声があった。

委 員 今回の埼玉大会は、「人生 100 年時代」と高齢者の活躍や支援に焦点を当てられてい

たので、場を持っているところ、世代間というところに焦点をあてるのはどうか。

委員 実際 100 年生きた人から話を聞くのは面白いと思うが、これから 100 歳を迎える人、特に 20 代・30 代くらいの人にそういう話が伝わるかどうかは疑問だ。

委員 若者をテーマにするなら、若者が登壇する方がよい。社会教育や生涯学習という言葉を使わなくても、かなり社会教育的な活動をしている若者はいる。そしてその人たちは社会教育委員の存在や活動を知らないだろうし、つながりもないと思うと、むしろ社会教育委員がそういう新しいことを学ぶことも必要なのでは。若者全員がそういうことに関心があったりアクティブなわけではないが、実はかなりリーダー的に動いている人たちはいる。

議長 「社会教育委員の在り方」「世代を超えてつながる」「若者に焦点を当ててみてはどうか」「市民のニーズを活かす・つなげる 社会教育」という意見が出ているが、ほかにあれば事務局の方へ伝えてほしい。

(3) 視察研修について (資料 3)

※ 事務局より、指定管理者による施設において市民のニーズをどう拾い、活かしているのか、また、複合施設による部署間の連携の工夫を見ることを目的に、おだわら市民交流センター UMECO と清水テルサの視察についての提案を説明。

議長 指定管理者と行政の関係や、社会教育委員からの意見などがあるのか、あるとしたらどのように反映されるのかについても聞いてみたい。

委員 市民のニーズの把握の仕方のひとつになると思うが、社会教育委員に限らず、運営委員のようなものの意見、市民活動を活性化するという意味で、あきしま会議でやりたいことのひとつである、いろいろな市民活動者をつなげる、応援するというを本業にしているセンターだと思うので、市民活動活性化のための取り組みを聞いてみたい。情報の発信の仕方についても聞いてみたい。

議長 次回事務局で研修の目的、および、意見を整理して質問のたたき台を示し、次回議論させていただくことにする。また参加についても次回お聞きしたい。

(4) あきしま会議について (資料 4)

※ 事務局より資料の説明。これまでの議論の中で出てきたキーワードから「若者と地域」という話がメインになってきているなか、小・中・高校生たちの声を聴く場としての「あきしま会議」という意見も出てきている。今度のあきしま会議をどのような内容にするか、日程をいつにするかを決めていきたい。

委員 大きくガラッと変えるとなると、時間的に相当厳しいので、今の枠組みを続けつつ、中学生が報告者として発信するというのはどうか。徐々に中学生、高校生が主役になれるような会をどう風に作ればよいかはその子たちと一緒に考えていくというのはどうか。

委員 子どもたちにあまり難しく考えさせないで、「君たちはどんなまちに住んでみたいか」というような希望などを自由に言えるような感じだといいのではないと思うが、発信

の仕方に工夫が必要だと思う。

議 長 「未来をひらく」に掲載されている作文を書いた児童生徒の皆さんは、そういう思いを持っていると思うが、どうだろうか。

委 員 中学生にとって、先生や家族以外の大人と話す機会はないので、参加すればすごく貴重な機会になると思うし、一方でチラシでは誰も来ないと思う。この間参加した子たちは、生徒会活動もするなど、それなりに話す内容も持っていると思うし、前回のあきしま会議で知った「みんな食堂」にも顔を出すなど地域とのつながりを持ち始めているので、そのつながりから参加してくれる子もいるかもしれない。

委 員 中学生だけに報告してもらおうというのではなくて、大人と中学生が関わっている活動があれば、一緒に報告してもらってもよいと思う。いきなり中学生が一つの場を持つのはなかなか難しい場合もある。

委 員 お囃子をやっている子たちやボーイスカウトやガールスカウトの子たちなどいると思う。

委 員 学校でチラシを配るより、そういう形が来やすいだろうし、テーマを決めるのではなく「そこで何をしているか」を来ている大人に話して聞いてもらうだけでもよいと思う。

委 員 生徒会活動などを通して、壁にぶつかるなど、結構悩みを持っているようだ。学校の中でそういうことを話せる同世代の仲間となると限られてしまうので、大人の話を聞く機会は貴重だと思う。

報 告

(1) 東京都市町村社会教育委員連絡協議会第2ブロック研修会について(10/26)

議 長 10月26日に国分寺市で行われた研修会について、参加された方から一言ずつ報告をお願いしたい。

委 員 第1部は国分寺市の社会教育委員の皆さんによる赤米についての活動報告だった。第2部はグループに分かれ、各市の活動報告や社会教育委員としてどういうことをしたいかなどを話し合った。1部と2部の間の休憩が長く、2部の時間は短かったので残念だったと思った。

委 員 国分寺市の赤米をテーマに、地域の子供たちに地域の良さを伝えるという着想が良いと思った。司会進行、説明された方々の語りが大変良かった。第2部では、「あきしま会議」に関心を寄せられ、質問攻めにあった。

委 員 第2部から参加した。私のグループでもあきしま会議への関心が高かったのだが、もうひとつ地元で昔から行われている踊りや農業をどう伝えていくかという話の中で、全部を全員が引き継ぐ必要はないのではという意見があった。具体的に言うと、ある特定の神社で受け継がれているものであれば、その近くの人たちが引き継ぎ、やっているということを何らかの形で共有すればよい。田んぼが近くにあるのならば、その作業の様子を市の内外に向けて発信すれば、負担なく共有の財産になるのではないかという意見だった。

議 長 今まで何度か各ブロック研修会に参加してきたが、これまでのものは外部から講師を

招き、前半は講義を聞き、後半はグループワークというパターンだったかと思うが、今回は社会教育委員の手作り感が伝わってくるものだったと思う。新鮮に感じた。グループワークでは、私のところでもあきしま会議への関心が高かった。最後の全体共有でも、5つのグループのうち、3つのグループで昭島市の委員が発表するなど積極的だった。この活動を展開してきて、今回は中学生の参加も見られたなど、いろいろな角度から発展させていきたいと思った。

(2) 第50回関東甲信越静社会教育研究大会(埼玉大会)について 11/7~8(資料5)

議長 資料として報告書も添付しているが、参加された委員より報告をお願いする。

まず、私は1日目の基調講演とシンポジウムに参加した。詳しくはお手元の資料をご覧ください。基調講演では、文教大学学園理事長の野島正也氏より、昭和38年には100歳以上の方が153名だったのだが、今年は71,000人2050年には52万になるというお話があった。シンポジウムでもそれに関連し、私たちは今後どのような生き方をするかについて様々な立場の人から話された。最後に新潟県の実行委員の皆さんが登壇し、プロモーションビデオの放映があった。令和3年度には、本研究大会が東京で開催されるわけだが、来年の新潟大会では東京大会のプロモーションをしていくことになっている。実行委員会のメンバーとして本大会を見ていたが、人手もかなり必要なこと、業務も多岐にわたることを感じた。

委員 私は2日目の第2分科会に参加した。テーマは「人生100年時代における社会教育の実践(事例研究)」だった。350人以上の参加があり2つの事例報告があった。1例目は「浦安市における回想法の展開～高齢者による高齢者のための回想法ボランティア(浦安思い出語りの会)」についてだった。印象に残ったのは、昔の懐かしいものを見せると、すっかり口数の少なくなっている人も滔々と語りだすのだそうだ。それにより、状態がよくなった方もいるなど効果もあるようだ。特に若い頃のことを思い出させるのがよいとのことだ。現在月1回程度高齢者施設等での活動とのだが、できれば各家庭でもできれば、在宅介護も楽になるのではという印象を受けた。2例目は、地域に若い人たちをどう根付かせるかという横浜市の「市ヶ尾ユースプロジェクト～中高生による、まちと未来づくり～」だった。地域の中高生を主人公にして、地産のものを通して地域を知り、地消するというNPOの取り組みだ。プログラムはNPOが用意するのではなく、参加する中高生が企画から実行まで行うとのことだ。感心したのは、参加している高校生が地域のために何かやりたいという自主的な意欲を持っていたところが活動の肝心なところだと感じた。大学生となった彼は、NPOで後進のサポートにあたっているとのことだ。若い力を生かしているよい例だと思った。

委員 私は第四分科会「人材発掘、養成、フォローアップのあり方(グループ協議)」に参加した。グループ討議は「KPT(ケプト)法」を用い、その手法を学ぶという感じでもあった。(詳細は資料参照)。グループ討議では各自が1つ事例を持ち込む形式で行われ、「あきしま会議」のことを話したところ、こちらでも関心が高かった。

(3) 令和3年度関東甲信越静社会教育研究大会東京大会 令和元年度第2回実行委員会について (資料6)

議長 当日の次第をお配りしているので、それぞれ説明する。

(1) 予算案についてだが、協賛金を各市で割り振り集めるということになった。東京都もこれに加わるようになった。(2) 委託業者の選定について、昭島市は委託業者選考委員として選出された。次(3)大会スローガンについて、1月21日に開催される実行委員会で決める。(4) 東京都も実行委員会へのオブザーバーとして協力が得られるようになった。都市社連協からは、協賛金のほかプロモーションビデオ等の協力を要請した。

次回

12月19日(木) 午後7時より 昭和会館

1月23日(木) 午後7時より 昭和会館